



ならコープ CSRレポート 2005

2004年度 環境・社会報告書

目 次

●組織の概要	1
●ごあいさつ	2
●新環境政策	3
●環境マネジメントシステム	
・環境方針	4
・2004年度の取り組み結果	5
・環境に関する法律等への対応、職員教育・訓練	6
・内部環境監査、コミュニケーション、定期サーベイランス	7
●事業活動に伴う環境負荷軽減の取り組み	
・事業活動に伴う省エネルギー・省資源の取り組み	8
・事業系廃棄物削減・リサイクルの取り組み	9
・環境に配慮した商品の開発・普及	10
●組合員とともにすすめた環境保全活動	11
●環境会計	14
●2005年度環境事業計画書	15
●温暖化防止自主行動計画	16
●2004年度環境監査報告書	17
●2004年度環境監査報告書への対応	18
●2004年度の社会貢献活動	
・コンプライアンス宣言	19
・最新のフードセーフティシステムの構築	22
・商品検査	24
・安心・安全の社会を願って	25
・安心して暮らすことのできる街づくり—たすけあい・子そだて—	26
・男女共同参画社会を目指して	28
●環境保全活動の歩み・アンケート	29

組織の概要 (数値は2005年3月31日現在)

創 立	1974年7月25日
本 部	奈良市恋の窪一丁目2番2号
	電話0742-34-8731 (代表)
組合員数	213,920人
出 資 金	69億1,740万円
職 員 数	1,888人
事業所数	23ヵ所 (支所6、店舗11、その他6)
供 給 高	341億2,173万円 (共同購入210億4,739万円、店舗131億598万円)

CSR=Corporate Social Responsibility (一般に「企業の社会的責任」と訳されます)

ごあいさつ



森 宏之

●専務理事

ならコープは1974年7月の創立以来、「このかけがえない地球と奈良の豊かな自然を次世代の子どもたちに引継ぎたい」と考えてきました。そして「よりよい生活は、平和とよりよい環境の中でこそ実現する」と考え、環境保全活動は生協の基本理念に関わるものと位置づけ、多くの市民が参加する組織として積極的に取り組むことを組合員みなで確認してきました。そして、創立30周年にあたっては、マスコミ各紙に掲載した広告「地域とともに、これからも。」において、以下のような奈良県民と組合員に向けての「六つのお約束」を公表し、環境事業の拡充を2010年ビジョンとして確認いたしました。

1. 食品の安全確保に向け、皆さまの声を聞き、行政との連携を図ってまいります。
2. 他の模範となるよう、常に最新のフードセーフティの仕組みづくりを推進します。
3. 食品の小売業としてISO^{※1}認証取得に向けた取り組みを行ってまいります。
4. 地域とともに在りつづけるため、地産地消^{※2}の食文化普及に努めます。
5. 環境・福祉事業の拡充を図ってまいります。
6. 子どもたちが安心して暮らせるように子育てやユニセフ活動を積極的に支援します。

また、2004年は創立30周年の多くの記念行事に取り組むことができました。奈良市内に2つの新店（コープ朱雀、コープ学園前）を出せたこと、環境保全型農業振興を支援するために地元奈良県産の農産物・畜産物をしっかりと消費する「食べる“なら”大和」商品の普及に取り組むことができ、JAならけんや地元農家との提携関係を一層強化することができました。関係者の皆様の積極的なご協力とご支援に深く感謝を申し上げます。

さて2004年度、ならコープはISO 14001：1996の認証を取得して以来、2回目の審査で「向上」評価をいただくことができました。この間、一貫して進めてきた、省エネ、廃棄物削減、リサイクル推進、環境配慮商品の普及など全般的な環境保全活動が評価された結果だと考えています。そして、2005年度の環境活動においては、引き続きすべての部署で新たな環境目標に取り組むとともに、4月理事会において策定した「地球温暖化防止自主行動計画」の実行に励む所存です。2005年度から始まる新たな環境目的と環境目標の具体化を開始し、環境保全活動の一層の推進を図って行きたいと考えます。最後に、今年度から、読みやすく、見てわかりやすい環境報告書をめざすとともに、社会的責任経営の実践の立場からのレポートを追加して編集いたしました。役職員一同、環境保全活動をならコープの存続に関わる重要かつ緊急の課題として再認識し、21万組合員とともに地域社会と皆様とも手をたずさえて一層、取り組みを強化していく決意です。現段階では私たちの取り組みはまだまだ不十分なものではありませんが、2004年度の活動報告をまとめさせていただきましたので、関係者の皆様から、忌憚のないご意見、ご批評をお聞かせいただければ幸いです。

※1 ISO 国際標準化機構の略で、9000シリーズは品質マネジメントシステムに関する規格、14000シリーズは環境マネジメントシステムに関する規格。

※2 地産地消 地域で生産したものを地域で消費するという考え方。輸送による環境負荷の軽減、地域の農業を守り育てるという観点から全国で推進されている。

新環境政策

ならコープでは1991年に環境基本政策を制定し、取り組みをすすめてきました。10年が経過し、その

到達評価を行ない、環境をめぐる情勢の変化を踏まえて、2001年度新たに「新環境政策」を策定しました。

理念

ならコープは、創立以来「よりよい生活は、平和とよりよい環境の中でこそ実現する」と考え、「安心・安全」を求めてさまざまな活動を展開してきました。地球規模での環境破壊が深刻化する中、私たちはこのかけがえない地球と奈良の豊かな自然を次世代の子どもたちに引き継ぎ、より良い環境を協同の力で実現することが、多くの市民が参加する組織としての責務であると認識し、環境保全活動を生協の理念に関わるものと位置づけ、すべての活動の基本として捉えます。

基本的な考え方

- 1) ならコープは環境保全への組合員の思いや願いの実現を追求します。
- 2) ならコープは学習をすべての環境保全活動の基本にし、組合員参加を広げ、自発的な市民としてライフスタイルの転換をすすめ、グリーンコンシューマー^{※3}を増やすことを目指します。
- 3) ならコープは、事業者責任を率先して果たし、環境を重視した新しい価値観に基づいた事業活動の展開に努めます。
- 4) ならコープは地域の中で行政や様々な組織・個人と連携・協力し、環境保全のまちづくり・ひとづくりをすすめ、持続可能な社会の実現に向けて努力します。

※3 グリーンコンシューマー 環境への影響を考慮して、環境に配慮した消費行動をとる生活者のこと。

※4 4R リフューズ（拒否）、リデュース（発生抑制・減量）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）の頭文字「R」として4Rという。

※5 グリーンツーリズム 農山村、漁村に滞在して、その他の自然や文化、人々との交流を楽しむ活動のこと。

※6 ゼロエミッション 事業活動で発生する廃棄物を抑制し、再利用、再生利用を通じて埋め立てる廃棄物をゼロにすること。

組合員活動の課題

- ①組合員とともに環境保全活動を実践します。
- ②環境の4R^{※4}（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）の実践をすすめます。
- ③河川の浄化、農地、里山、山林を守る自然環境保全の活動やグリーンツーリズム^{※5}や国際支援の研究をすすめます。
- ④生産者との交流や学習を積極的に行ないながら、「地産地消」「食の循環システム」の確立に向けて、研究をすすめます。
- ⑤県及び市町村との連携や懇談をすすめます。
- ⑥環境教育、学習、情報の体系的整備をすすめます。
- ⑦地域での環境活動団体への交流・連携、ひとつづくりを積極的にすすめます。

商品事業の課題

- ①環境配慮型商品の定義づけ、リスト管理のしくみを整理し、商品の普及に努めます。
- ②「食品の安全」と「環境」の視点で商品づくりをすすめます。
- ③容器包装材の簡素化と材質点検をすすめます。
- ④商品への環境関連情報表示の整備をすすめます。

事業活動の課題

- ①事業系廃棄物のゼロエミッション^{※6}化をめざすとともに、循環型社会システム構築に向けて努力します。
- ②事業活動に伴う有害化学物質の低減をすすめます。
- ③リフォーム・リペア、リサイクルなどエコビジネス^{*}の研究をすすめます。
- ④環境マネジメント推進体制を整備します。



環境マネジメントシステム

ならコープは1998年11月から自主的な環境マネジメントシステムを導入し、取り組みをすすめてきましたが、

2003年3月に環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001:1996の認証を取得しました。

● 環境方針

市民生活協同組合ならコープは環境保全の活動を生活協同組合の理念に関わるものと位置づけ、持続可能な循環型社会の形成をめざし、地域社会とともに取り組みをすすめます。

ならコープは、組合員を対象に食料品・日用品を中心とした商品の供給事業と共済事業、福祉事業、サービス事業を行っています。

これらの事業活動による環境影響の大きな項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で目的・目標を設定し、環境負荷の軽減と汚染の予防、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。また、環境関連の法令、条例、受け入れを決めたその他要求事項を遵守します。

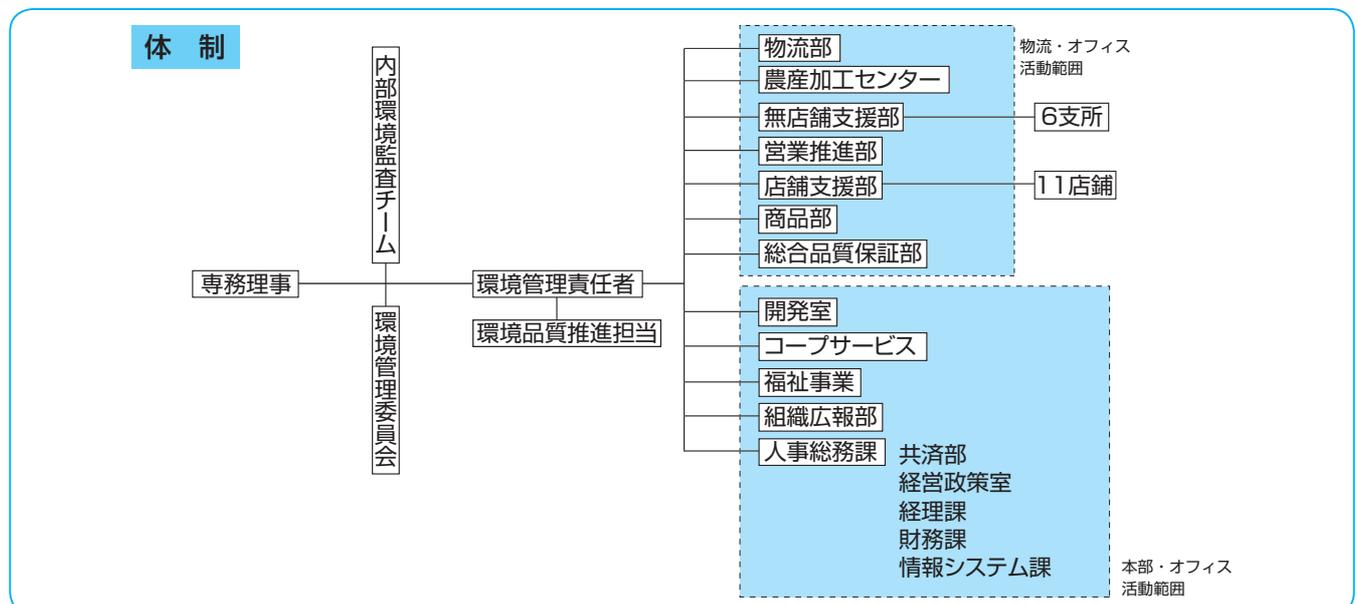
1. 環境に配慮した商品の品目を増やし、積極的に普及します。商品の容器包装の削減につとめます。また環境に配慮したサービスの普及をはかります。
2. 地球温暖化防止対策としてCO₂排出量の削減をめざし、事業活動に伴う電気使用量及び車両燃料の使用量を抑制し、事務用紙の使用量削減をすすめます。
3. 事業系廃棄物の削減と再資源化をすすめます。
4. ならコープの施設開発での環境配慮を推進します。
5. 買い物袋持参運動を積極的に呼びかけレジ袋の使用量の抑制をすすめ、また牛乳パック、PETボトル、食品トレー、空き缶、卵パック、シッパーの内掛け袋および共同購入カタログリサイクルへの参加を広げます。
6. 組合員による環境保全活動を積極的に支援します。

この環境方針と環境活動の取り組み状況は、ならコープ内外に公表します。また方針の具体化をはかり、実現のために全役職員並びに事業所内に所在する協友店及び委託先の従業員への周知・教育を行ないます。

2005年 4月18日改訂

市民生活協同組合ならコープ

専務理事 森 宏之



● 2004年度の取り組みの結果

方 針	2004年度計画	実 績	評価
環境に配慮した商品	有機農産物の取扱いを2品目、地元（奈良県産）農産物の取扱いを4品目、合計6品目の取扱いを開始する	有機農産物4品目、地元農産物20品目実現	○
	環境配慮型商品の基準に添った商品の選定と必要な情報を現場に提供し、商品普及の援助を行なう	普及商品のリストアップ化、供給数量目標などを起案	○
	環境配慮型商品の重点品目を6月、11月の普及月間に前年対比100%をめざして普及する（点数）	6月108.5%、11月84.8%	×
	「ふとん打ち直し」利用者を2003年度利用者対比で5%増やす（1,760人）	1,922人の利用	○
	「ふとん丸洗い」利用者を2003年度利用者対比で5%増やす（2,424人）	1,973人の利用	×
	「エアコンクリーニング」利用台数を2003年度利用台数対比で5%増やす（1,355台）	1,810台の利用	○
電気使用量の抑制	事業活動に伴う電気使用量を、2003年度実績対比で111.9%に抑制する	修正目標対比99.6%（18,900,031kwh）に削減	○
車両燃料の使用量抑制	配達ポイント100件あたりの使用量を2003年度実績対比で100%以下に抑制する（無店舗事業）	累計実績が計画比98.1%	○
	訪問ポイント100件当りの使用燃料を2003年度実績対比で100%以下に抑制する（営業推進部）	累計実績が計画比83.2%	○
	加入登録1人当りの使用燃料を2003年度実績対比で107%以下に抑制する（営業推進部）	累計実績が計画比78.2%	○
	訪問ポイント100件あたりの使用燃料を2003年度実績対比で98%以下に抑制する（共済部）	85.0%	○
	加入登録1人当りの使用燃料を2003年度実績に維持しする（共済部）	61.1%	○
事務用紙の使用量の削減	コピー用紙の使用量を68,719kg以下に抑制する	修正目標対比94.0%（64,608kg）となり達成、2003年度実績対比101.5%	○
事業系廃棄物の削減と再資源化	事業系廃棄物の削減（支所・店舗・物流・農産加工）での排出量を522,118.3kg以下に抑制する	目標対比86.5%、451,478kgに抑制	○
買い物袋持参運動	マイかご・マイバッグを全店合計で2,500個普及する	2,793個普及	○
リサイクルへの参加	単月回袋数発生量の回収率を25%以上とする	24.7%	×
	商品案内書の回収率を2003年度比で1%ひき上げる	回収率59.9%、達成（2003年度57.7%）	○
	牛乳パック 2002年度実績対比100%に維持する	2002年対比100.8%／実績70,515kg	○
	PETボトル 2002年度対比105%に増加させる	2002年対比115.1%／実績104,911kg	○
	食品トレー 2002年度実績対比120%に増加させる	2002年対比124.3%／実績115,255kg	○
	飲料缶 2002年度実績対比97%以上に維持する	2002年対比100.7%／実績64,120kg	○
	卵パック 2002年度対比130%に増加させる	2002年対比105.7%／実績29,527kg	×
組合員による環境保全活動	環境保全企画の開催	5月に募集し、6月に実施	○
	環境測定活動の実施	333人が参加（昨年307人）	○
	環境資金活用用途の検討	環境保全に取り組み団体への助成金	○
施設開発での環境配慮	施設概要書の作成	16事業所の概要書を作成	○
	メンテナンス管理表の作成	16事業所の管理表を作成	○

● 環境に関する法律等への対応

環境に関連する法律・条例・協定等の遵守状況

法規制名	要求事項	該当事業所	評価
廃棄物処理法	産業廃棄物委託・保管基準・マニフェスト管理 特別管理産業廃棄物管理責任者の配置	全事業所 総合品質保証部	○
奈良県生活環境保全条例	事業者による廃棄物の減量の推進	全事業所	○
水質汚濁防止法・瀬戸内海環境保全特別措置法・水質汚濁防止法第3条第3項の規定による排水基準を定める条例	処理対象人員201人～500人の浄化槽の届出、排水水質基準の遵守と測定記録	ディアーズコープいこま、ディアーズコープたつたがわ、コープたかだ	○
水道法	貯水槽の清掃、点検	物流センター、農産加工センター、ディアーズコープいこま、ディアーズコープたつたがわ、コープみみなし、コープいまご	○
浄化槽法	浄化槽設置の届出、保守点検と清掃、定期検査の実施	コープ六条、ディアーズコープいこま、ディアーズコープたつたがわ、コープたかだ、生駒支所、高田支所	○
消防法	防火管理者の届出 指定可燃物貯蔵施設届出 自家発電施設の重油等危険物の貯蔵取扱い責任者の設置と管理	全事業所 物流センター（統合支所含む）、北部支所、生駒支所、高田支所、桜井支所 物流センター	○
高圧ガス保安法	液化炭酸ガス・LPGスタンド設置の届出と基準遵守、点検・記録	物流センター	○
大気汚染防止法	自家発電装置の設置届出、ばい煙排出基準遵守・測定・記録	物流センター	○
奈良市アイドリング・ストップ条例	指定地域でのアイドリング・ストップ	全事業所	○
毒物及び劇物取締法	毒物劇物の管理基準、表示	総合品質保証部	○
改正資源リサイクル法	ならコープ商品及びならコープが指定する容器包装の分別表示	商品部、物流部	○
容器包装リサイクル法	ならコープ商品及び事業活動で使用する容器包装の再商品化	環境・品質推進担当	○
家電リサイクル法	供給した指定家電の回収、事業所で廃棄する指定家電の引き取り要請	全事業所	○
食品リサイクル法	食品廃棄物の減量、再生20%（2006年度）	全事業所	○
建設資材リサイクル法	建設・解体時の届出	開発室	○
大規模小売店舗立地法	騒音、廃棄物排出量の予測の届出	開発室	○
農業取締法	農業販売の届出、帳簿管理	商品部	○
肥料取締法	肥料販売の届出	商品部	○
フロン回収破壊法	業務用エアコン、冷凍冷蔵庫廃棄時のフロン回収業者への引渡し	開発室	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律	2,000㎡以上の店舗等建築時、省エネルギー措置を届出	開発室	○
香芝市真美ヶ丘での店舗開設に関する協定書	被緑面積、営業時間、搬入時間の遵守等	コープ真美ヶ丘 店舗支援部	○

● 職員の教育・訓練を実施しました。

「環境テキスト2004」を作成し、ならコープの全役職員、業務委託先の従業員を対象にならコープの環境方針、目的・目標の教育を実施しました。業務内容に応じて必要な手順を作成・

整理しその教育及び訓練を実施しました。

また、全役職員に、「環境レポート2004」を配布しています。

● 全部署・事業所の内部環境監査を実施し、是正を行ないました。

定期内部環境監査を実施しました。18名の監査員がチームを編成し、環境マネジメントシステムが①ISO14001:1996の規格の要求事項に適合して構築され、②適切に実施され、維持されているかどうかについて判定することを目的に10月25日にシス

テム構築状況の監査、10月26日～11月4日の間に全部署・全事業所の運用監査を実施しました。監査の指摘概要は以下の通りです。

1. 指摘事項総数 81件

重大な不適合 0件／軽微な不適合 17件

観察・指摘事項 64件（推奨事項 10件含む）

2. 指摘の概要

昨年と同様、軽微な不適合、観察ともに「4.3.3 目的及び目標」「4.4.2 訓練、自覚及び能力」「4.4.6 運用管理」での指摘が多く見られました。内容的には、目標と実績の乖離（目標設定の精度）、特別教育や委託先等への教育の未実施（決められた管理項目の確実な実施）、手順等の不徹底などです。監査員からのおすすめ・提案事項を観察（推奨）として集計しています。

3. 監査結論

①環境マネジメントシステムがISO14001:1996の規格の要求事項に適合して構築されているか。

適合 / 不適合（ 重大 / 軽微 ）

②環境マネジメントシステムが適切に実施され、維持されているか。

適合 / 不適合（ 重大 / 軽微 ）

● 関係者との環境に関するコミュニケーションを積極的にすすめました。

組合員や職員、周辺住民など外部からの環境に関する意見、要望、苦情や遵法、事故緊急事態の発生時における外部とのコ

ミュニケーションについて、2004年度に寄せられた環境情報の主なものは以下の通りです。

環境情報	内容と対応
異臭に関する苦情（5件）	コープ学園前の地下2階の生ごみ臭が店内に流れ込んでいることへの苦情 →地下1階、地下2階の入口に風除室を設置。 コープ六条の生ごみ処理機の異臭に対する苦情 →活性炭を交換し対応。 コープ真美ヶ丘のトイレの臭いに対する苦情 →トイレ掃除を強化すると回答
店内温度への意見（3件）	店内が冷え過ぎること、暑過ぎることに対する苦情 →こまめに温度調整をすることを回答。
騒音に対する苦情（1件）	室外機の音に対する苦情 →室外機と換気扇の向きを変更。
リサイクルに対する要望等（8件）	商品をバックしているトレーが大きすぎる。スポンジも必要ないのでは。 →きれいに広げることで売につながることを、スポンジは汁を吸収させるために必要なことを回答 リサイクルマナーに対する意見 →組合員への啓発と点検を強化することを回答。
レジ袋有料についての意見（19件）	レジ袋を無料にとの要望、お金を払わずに使用する組合員に対する苦情など →買い物袋持参運動の趣旨と代金は環境資金として運動の啓発に活用していることを回答。

● 第2回定期サーベイランスで「向上」の評価を受けました。

2005年2月2日～4日に2年目の定期サーベイランスが実施されました。審査結果は、「向上」「維持」「低下」「受認不可」の4段階で評価されます。ISO14001:1996要求事項の中で、遵法

性については「維持」、目的及び目標については「向上」、環境マネジメントシステム監査については「向上」、総合評価で「向上」となりました。



事業活動に伴う環境負荷軽減の取り組み

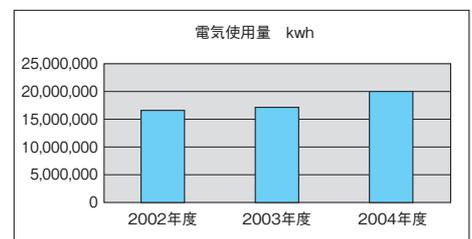
● 事業活動に伴う省エネルギー・省資源の取り組み

事業活動でのエネルギー使用による二酸化炭素排出量

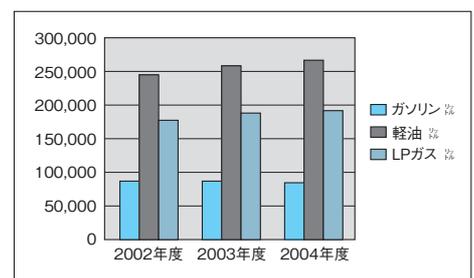
	2004年度使用量	2003年度使用量	係数	2004年度二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	2003年度二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)
電気 (kwh)	17,792,692	14,948,490	0.378	6,725,638	5,650,529
水道 (m ³)	89,108	86,601	0.590	52,574	51,095
都市ガス (m ³)	78,517	69,439	2.108	165,514	146,377
LPガス	2,537	2,414	6.094	15,460	14,711
ガソリン (ℓ)	83,949	84,869	2.322	194,930	197,066
軽油 (ℓ)	265,126	257,945	2.624	695,691	676,848
LPガス	188,836	186,939	1.681	317,433	314,244
重油 (ℓ)	580,130	533,202	2.710	1,572,152	1,444,977
合計				9,739,391	8,495,848

2004年度の電気、車両燃料、廃棄物などの削減（抑制）目標を設定し、省エネルギーの取り組みを強化しました。2004年度は新規に2店舗出店したことなどにより1年間のエネルギー使用に伴う二酸化炭素排出量は9,739,391kg（前年比114.6%）になりました。

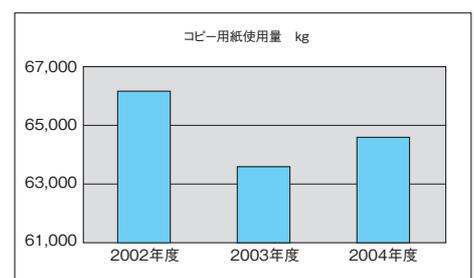
①電気の使用量は、店舗の営業時間延長、コープ朱雀の開店等のため2003年対比で110.4%に抑制することを目標にしました。しかし、観測史上初めての猛暑により、5・6・7月の電気使用量が目標を超過したため目標を修正しました。コープ学園前は、8月に開店し実績把握することとし具体的な数値目標を設定しませんでした。修正目標比99.6%と削減することができました。（当初目標比101.0%）



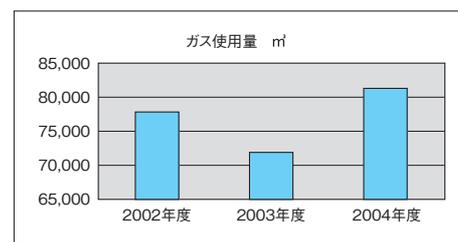
②車両燃料の使用量はガソリンが前年比98.9%、軽油が102.8%、LPGが101.0%となりました。



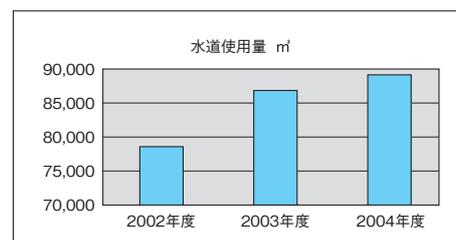
③コピー用紙の使用量は64,608kgとなり修正目標比94.0%になりました（当初目標比101.5%）。北部支所と高田支所が大幅に増加し、支所全体では前年比103.2%、店舗はコープ朱雀とコープ学園前の2店舗が新たに増えたことにより前年比110.3%増加しています。既存店では91.1%と削減できています。



④ガスの使用量（81,054m³）は2003年度比で112.8%（71,853m³）に増加しました。2つの新店分とコープみみなし・コープたかだの増加分（ガスヒーボン使用による増加）を除くと99.7%となり、若干削減されました。



⑤水道の使用量（89,108m³）は2003年度比で102.9%と増加しました。2つの新店分を除くと96.8%（コープ六条の水漏れ分4,000m³として計算）となります。2004年1月にディアーズコープいこまとコープみみなしに節水器を実験導入しました。ディアーズコープいこまは前年比90.1%、コープみみなしは前年比88.5%（1～3月比較）と効果が出ています。



⑥物流センターに設置している自家発電装置に使用している重油使用量（2004年度580,130ℓ：2003年度533,202ℓ）は8.8%増加しました。物流センターの電気使用量（2004年度3,048,070kwh：2003年度2,795,530kwh）は前年比109.0%（関西電力106.3%・自家発電110.1%）と増加しています。

● 事業系廃棄物削減・リサイクルの取り組み

①2004年は支所、店舗、物流センター、農産加工センターでの事業系廃棄物の排出量を522,118.3kg以下に抑制する目標を掲げ、86.5%に抑えることができました。

	事業系廃棄物排出目標	事業系廃棄物排出量
支所（6支所）	56,343kg	38,710kg
店舗（10店舗）	392,626kg	335,773kg
物流センター	73,150kg	64,379kg
農産加工センター	0kg	12,616kg
合計	522,118kg	451,478kg

②生ごみリサイクル

ディアーズコープいこま及びディアーズコープたつたがわの魚アラは業者に引き取られ飼料としてリサイクル、ディアーズコープいこまの魚アラを除く生ごみは生駒市し尿汚泥リサイクル事業に参加し、全量飼料化しました。コープ朱雀、コープ学園前の生ごみも業者に引き取られリサイクルされています。

③発泡スチロール漁箱のリサイクル

物流用梱包材として使用している発泡スチロールの漁箱と、無店舗事業で使用している共同購入用の保冷シッパーの廃棄分25,623kg（目標対比102.5%）を減容し、積水化成品工業㈱に引渡しプラスチック原料としてリサイクルしました。

④段ボール・事業所古紙のリサイクル

物流センター、店舗、支所で発生した段ボールは全量リサイクルしました。物流センターでの再資源化量は487,430kg（前年比100.7%）となっています。また店舗を除く各事業所で発生する紙ごみは古紙業者に引渡し、160,910kg（前年比97.1%）が古紙原料としてリサイクルされました。

⑤カタログ（商品案内書）のリサイクル

カタログを回収して、再びカタログ用の紙に再生する取り組みが1999年にスタートしました。2004年度回収量は1,603,370kg、回収率は59.9%となりました。回収量は順調に増えていますが、5年が経過して回収ルールが曖昧になってきています。リサイクルできない紙の混入を防ぐためにあらためてアピールしていきます。



カタログリサイクル

⑥内掛袋のリサイクル

共同購入・戸配・荷受けハウスお届け時に使用しているポリエチレン袋は、20,415kg回収（回収率24.7%）し、リサイクル業者に引き渡しました。

● 環境に配慮した商品の開発・普及

サラダ水菜、ちぢみほうれん草などの有機農産物4品目とアーリーレッド、坊ちゃん南瓜、なすび、ブルーベリー、小松菜などの地元農産物20品目を新たに取扱いを開始しました。また、6月の環境月間、11月のリサイクル月間には店舗を中心に重点的に環境に配慮した商品の普及をすすめました。



環境月間の売場

商 品 名	6 月			商 品 名	11 月		
	実 績	計 画	計画比		実 績	計 画	計画比
グリーンキーパーティッシュー 200組×6入り	1,076	1,320	81.5	レンジ食品ラップレギュラー5層 30×20	810	1,070	75.7
エコスリムコアノンロール130S 6 R	2,952	2,890	102.1	レンジ食品ラップミニ5層 22×20	1,213	1,520	79.8
エコスリムコアノンロール180S 6 R	2,929	2,740	106.9	セフターEパワフルコンパクト 1.2kg	1,481	3,720	39.8
レンジ食品ラップレギュラー5層 30×20	969	900	107.7	弱酸性食器洗い詰換え 250ml	2,065	2,410	85.7
レンジ食品ラップミニ5層 22×20	1,405	815	172.4	排水口用水切り袋 25枚	1,354	980	138.2
弱酸性食器洗い詰換え 250ml	2,295	1,870	122.7	三角コーナー用水切袋 25枚入	819	1,190	68.8
粒状粉石けん無香料 1.6kg	218	230	94.8	エコスリムコアノンロール130S 6 R	2,949	3,100	95.1
セフターEパワフルコンパクト 1.2kg	3,388	3,450	98.2	グリーンキーパーティッシュー 200組×6入り	910	1,110	82.0
おおぞらニューコンパクト 1.35kg	239	170	140.6	CSマチ付ゆったり無漂白お茶パック 100枚	572	1,100	52.0
排水口用水切り袋 25枚	1,135	915	124.0	コーヒーフィルター無漂白2～4杯 100枚	2,236	800	279.5
合 計	16,606	15,300	108.5	合 計	14,409	17,000	84.8



組合員とともにすすめた環境保全活動

1) アースデー^{※7}の開催

15回目となった「アースデー 2004inなら」は約1,100人の市民の参加で開催しました。前年度から奈良県環境県民フォーラムへの参加団体等に呼びかけ、実行委員会を結成し企画準備から運営までをすすめました。引き続き国土交通省からの支援を得て、大和川クリーン作戦をメインイベントに河川環境をテーマに実施しました。2トントラック2台分のごみを集めました。



2) 組合員の環境保全活動

- ・13回目となる環境測定活動は、333人（昨年307人）の参加となりました。
- ・親子環境家計簿の取り組みには、夏号30人、冬号8人が参加し暮らしの見直し活動を行ないました。
- ・ネット奈良東の洗剤学習会（コープクリーン）に45人、ネット五條の五條市リサイクルプラザ見学会に10人、ネット香芝東のリサイクルトレットペーパーメーカー（リバース）見学会に25人の方が参加し、環境学習がすすめられました。
- ・あすなら塾では環境省職員を講師に迎え「温暖化対策税と私たちの暮らし」をテーマに32人が、南エリア版あすならセミナーでは地球温暖化防止をテーマに45人の方がそれぞれが参加しました。
- ・高山の里の親子自然観察を2回開催し、春16組39人、秋17組47人の方々が参加しました。



あすならセミナー

※7 アースデー 1970年4月22日にアメリカの学生の呼びかけではじまった環境を守る行動を実践する日を指す。ならコープでは、1990年から毎月開催している。

3) 行政・企業・他団体等とともにすすめた環境の取り組み

行政等との関係では、県主催「環境の日街頭キャンペーン」への参加、奈良県環境県民フォーラム主催の環境フェア、県及び森林組合主催の「なら森を育てる県民のつどい」、奈良県暮らしと環境フェスティバル実行委員会主催の同フェスティバル、市民団体主催天理環境フォーラム2004に出展参加しました。各エリア単位では5月大和郡山市ごみリネーションフェア、10月桜井市環境フェスティバル、11月香芝市ふれあいフェスタに出展しました。桜井市環境フェアでは、出展をきっかけに桜井市立城島小学校の環境学習授業に参加することとなり、地域でのネットワークの輪が広がりました。

奈良県環境県民フォーラム活動では奈良県の環境保全団体活動事例集「地球を守るのは私たち！」編集に組合員理事が参画しました。

奈良市環境清美部からごみ減量・リサイクル学習会の依頼があり、ならコープの環境保全活動と施設の見学が実施されました。



桜井市環境フェアに参加

4) おぎゃあプレゼント

赤ちゃんの生まれた組合員の皆様に石けんをプレゼントする「おぎゃあプレゼント」は1,504人（昨年1,167人）となりました。

5) 環境資金の活用

店舗でのスーパーバッグ使用時に入金をお願いしている環境資金の活用について検討し、2005年度から資金の一部50万円を県内の環境保全に取り組む団体への助成に活用することにしました。2005年度分の募集を3月から開始しました。

6) 買物袋持参運動

買物袋持参運動の結果、2004年度の買物袋持参率は79.26%となりました。運動によるスーパーバッグ削減枚数は約496万枚となり、ドラム缶にして約511本分の原油節減効果となりました。また、2004年度は創立30周年の記念品として、コンパクトなオリジナル買物袋をつくり、5万枚普及しました。新店（朱雀、学園前）の買物袋持参率向上に貢献しました。



店舗で買物袋持参のよびかけ

	持参率	スーパーバッグ削減枚数
2002年度	79.60%	432万枚
2003年度	79.10%	429万枚
2004年度	79.26%	496万枚

*持参率算出法 $\{1 - (\text{スーパーバッグ使用枚数} \div \text{店舗利用人数} \times 1.1)\} \times 100$
来店されたすべての方が買物袋を持参されなかった場合、1回の買い物について1.1枚のスーパーバッグを使用すると想定して算出。

7) 牛乳パック回収

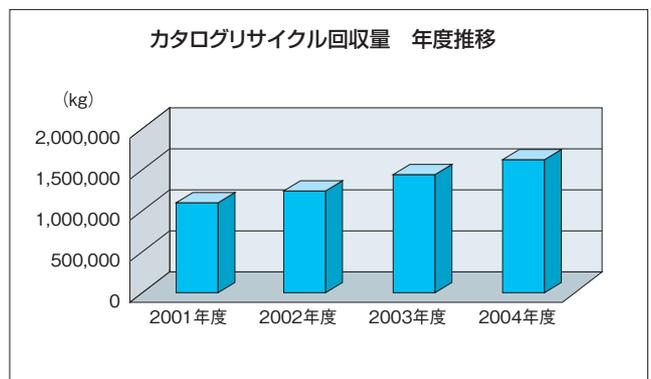
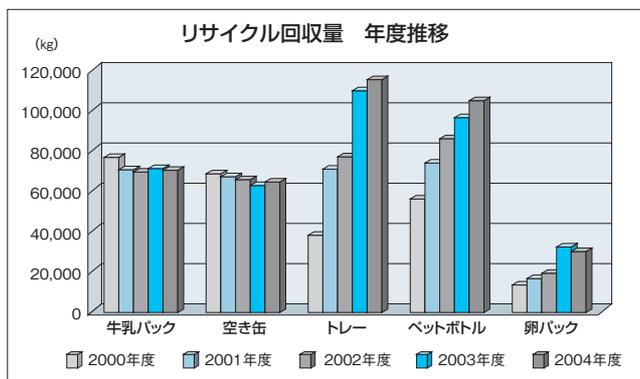
無店舗事業での牛乳パック回収単位となっているミニステーションへのアンケートを行ない、回収ルールの見直し検討に着手しました。2005年度中に新ルールの提案を準備します。

8) リサイクル・省資源の取り組み

牛乳パックの回収量は、前年対比99.1%と再び減少しました。空き缶は、前年比102.6%と増加しています。プラスチック系の容器包装の回収量は、食品トレーが前年比105.0%、PETボトルが前年比108.3%と増加傾向が続いています。卵パックは前年比91.1%と減少しました。上半期の前年比が99.6%に対して下半期が83.5%と減少しており、卵価格の高値が続いている

この影響も考えられます。カタログは、1,603,370kg（前年比113.1%）を回収、回収率は前年比2.2%増の59.9%になりました。

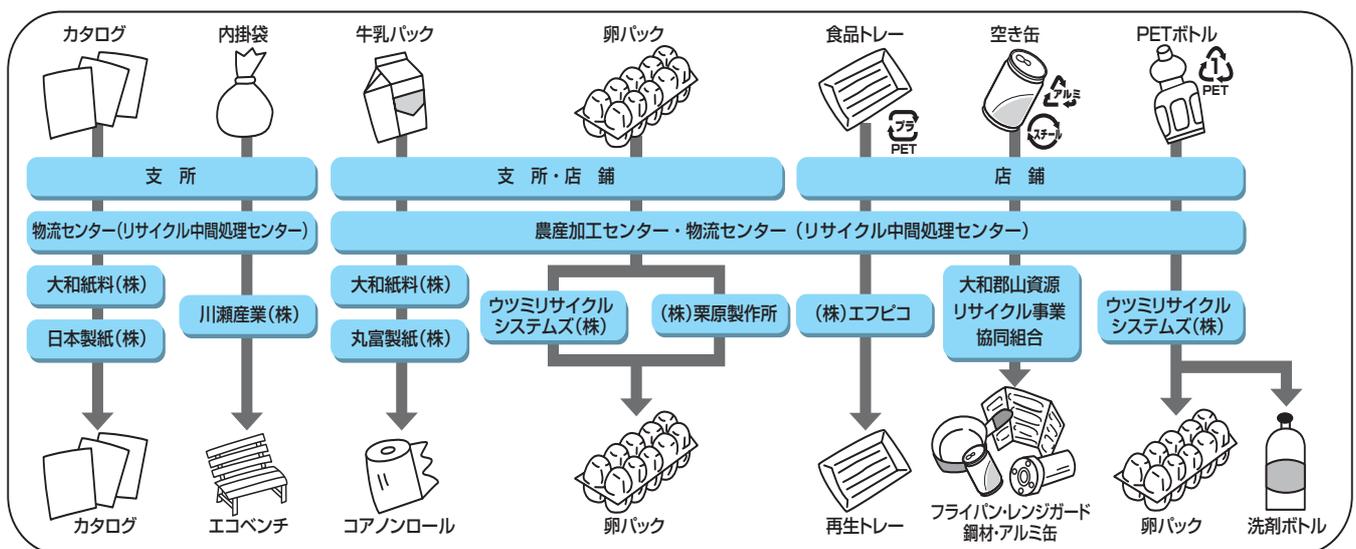
ならコープ開発商品の醤油（1.8ℓ）と酢（900ml）の瓶はリターナブルビン^{※8}を使用し、2004年度1年間の回収率は、醤油54.3%（前年89.8%）、酢35%（前年33%）です。



	牛乳パック	空き缶	トレー	PETボトル	卵パック
2000年度	77,050	68,470	37,823	55,668	13,573
2001年度	70,410	67,250	70,288	74,117	16,306
2002年度	69,960	65,630	77,259	86,796	21,485
2003年度	71,190	62,520	109,734	96,916	32,421
2004年度	70,515	64,120	115,256	104,914	29,526

	回収量 (kg)	回収率 (%)
2001年度	1,082,400	52.65
2002年度	1,237,035	55.10
2003年度	1,417,493	57.70
2004年度	1,603,370	59.90

ならコープのリサイクルルート



※8 リターナブルビン 使い終わった後、洗って生産者に返し、繰り返し使うビンのこと



環境会計

2004年版生協環境会計ガイドラインに従い、ならコープの環境保全の取り組みを可能な範囲で洗い出し作成しました。

(単位：千円)

環 境 保 全 コ ス ト		投 資 額	費 用 額
分 類	主な取組の内容		
事業エリア内コスト			
内訳	(1)-1 公害防止コスト		3,164
	(1)-2 地球環境保全コスト		
	(1)-3 資源循環コスト		36,437
上・下流コスト	再商品化委託費用。リサイクル回収費用		9,251
管理活動コスト	ISO14001サーベイランス費用、教育・訓練費用		1,668
調査研究コスト	環境保全活動に関する調査研究		
社会活動コスト	組合員の環境保全活動支援、行政・他団体等との取り組み		1,132
環境損傷対応コスト			

環 境 保 全 効 果					
		環境保全効果を表す指標	実 績	2002年度との差	
事業エリア内コストに対応する効果	事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入	電気 (kwh)	17,792,692	2,979,829
		都市ガス (m ³)	78,517	3,134	
		LPG (m ³)	2,537	296	
		重油 (L)	580,130	122,482	
		ガソリン (L)	83,949	-4,236	
		軽油 (L)	265,126	21,409	
		LPG (L)	188,836	11,906	
		水 (m ³)	89,108	14,418	
		エネルギー消費によるCO ₂ 排出量	9,739,391	1,541,574	
	事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	大気への排出等	NOX排出量 (kg)	6,428	413
水域、土壌への排出					
廃棄物等の排出			451,478	-43,810	
廃棄物リサイクル量		生ごみ・廃食油 (kg)	98,174	—	
上・下流コストに対応する効果	事業活動から産出する財・サービスに関する効果	回収リサイクル量 (kg)	レジ袋想定削減枚数	4,964,535	638,790
		紙パック回収	70,515	555	
		食品トレイ回収	115,256	37,997	
		PETボトル回収	104,914	18,118	
		空き缶回収	64,120	-1,510	
		卵パック	29,526	8,041	
		内掛袋	20,415	—	
		商品案内カタログ	1,603,370	366,335	

環 境 保 全 対 策 に 伴 う 経 済 効 果		
効 果 の 内 容		金 額
収益	リサイクルによる有価物の売却収入	2,399
	マイバッグ運動によるレジ袋代金	3,595



2005年度環境事業計画書

環境方針	全体の環境目的 (2008年3月の到達)	全体の環境目標 (2006年3月の到達)	実施部署
環境に配慮した商品の品目を増やし、積極的に普及します	有機農産物の取扱いを1品目、地元(奈良県産)農産物の取扱いを1品目、合計2品目の取扱いを開始します。	有機農産物の取扱いを2品目、地元(奈良県産)農産物の取扱いを4品目、合計6品目の取扱いを開始します。	商品部
	環境配慮型商品の基準に添った商品の選定と必要な情報を現場に提供し商品普及の援助を行いません。	環境配慮型商品の基準に添った商品の選定と必要な情報を現場に提供し商品普及の援助を行いません。	商品部
	重点品目供給点数の2004年度実績対比101%以上にします。	重点品目供給点数の2004年度実績を維持します。	店舗
環境に配慮したサービスの普及をはかります	ふとん打ち直し、丸洗い、エアコンクリーニングの利用者を2003年度対比5%増やします。	ふとん打ち直し、丸洗い、エアコンクリーニングの利用者を2003年度対比5%増やします。	コープサービス
事業活動に伴う電気使用量を抑制します	事業活動に伴う電気使用量を2004年度実績比94.2%に抑制します。	事業活動に伴う電気使用量を2004年度実績比104.6%に抑制します。	全部署
地球温暖化防止対策としてCO ₂ 排出量の削減をめざします	温暖化防止自主行動計画を策定し、2002年度実績対比でCO ₂ 排出量を1%削減します。	既存施設での省エネ設備機器等の導入可能性を調査・検討します。	環境・品質推進担当
事業活動に伴う車両燃料の使用量を抑制します	配送及び仲間づくりでの車両燃料の使用を配達(訪問)ポイントあたり2003年度実績を維持します。	使用燃料の削減(エコドライブ)を図り、配達ポイント100件あたりの使用燃料を年間累計で2003年度実績比100%に維持します	全支所
	訪問ポイント100件当りの使用燃料を抑制します。(使用燃料/訪問件数×100)	営業推進部での訪問ポイント100件あたりの使用燃料を2003年度実績に維持します。	営業推進部
	加入登録1人当りの使用燃料を抑制します。(使用燃料/仲間づくり実績)	2003年度実績比で燃料使用量 120%以下に抑制します。	
事務用紙の使用量削減をすすめます	コピー用紙の使用量を2003年度実績比95%に削減します。	コピー用紙の使用量を2003年度実績に維持します。	全部署
事業系廃棄物の削減と再資源化をすすめます	2003年度実績対比105.0%以下に抑制します。	2003年度実績対比114.2%以下に抑制します。	全部署
買い物袋持参運動を積極的に呼びかけ、レジ袋の使用量の抑制をすすめます	マイバッグ、マイカゴの普及をすすめ、買い物袋持参運動を推進します。	マイカゴ、マイバッグを3,000個普及します。	全店舗
容器包装及び共同購入カタログリサイクルへの参加を広げます	共同購入カタログの回収率を2003年度対比で2%以上増やします。	カタログの回収率を2003年度対比で1%以上増やします。	無店舗支援部
	組合員からのリサイクル回収(重)量を増やします。	組合員からのリサイクル回収(重)量を増やします。	環境・品質推進担当
	牛乳パック 2003年度実績対比95%にします。	牛乳パック 2003年度実績対比97%にします。	
	飲料缶 2003年度実績対比95%以上にします。	飲料缶 2003年度実績対比97%以上にします。	
	食品トレー 2003年度実績対比115%に増やします。	食品トレー 2003年度実績対比105%に増やします。	
	PETボトル 2003年度実績対比110%に増やします。	PETボトル 2003年度実績対比105%に増やします。	
卵パック 2003年度実績対比90%以上に維持します。	卵パック 2003年度実績対比95%以上に維持します。		
組合員による環境保全活動を積極的に支援します	地域での環境保全活動支援をすすめます。	地域の環境保全活動を支援します。助成金事業を実施します。	組織広報部
ならコープの施設開発での環境配慮を推進します	工事手順書にしたがい、既存施設の改装の場合は環境負荷を少なくします。新規開発の物件は、今後の改装等を考慮した設計に配慮します。施設概要書を作成し、工事手順書に反映させます。	施設概要書に基づく調査を実施します。建物設備修理履歴を作成します。施設概要書の点検をします。	開発室



温暖化防止自主行動計画

2004年2月16日に京都議定書が発効し、温室効果ガスの削減は待ったなしの課題です。ならコープでは温室効果ガスの9割を占めるCO₂排出量の削減に向けて「温暖化防止自主行動計画」を策定しました。この計画は日本生協連の呼びかけで全国のISO14001認証取得生協が中心になって取り組んでいます。

環境マネジメントシステムの中で目的・目標に掲げ、毎年の計画と目標達成状況を把握し継続的に削減して行くことをめざします。

1) 地球温暖化防止自主行動計画の目標

「供給商品1点あたり」のCO₂排出量を、2002年度比で2007年度に1%以上削減します。

算定の計算式

$$\frac{\text{CO}_2\text{排出量}}{(\text{店舗の供給点数} + \text{共同購入の供給点数})}$$

	単 位	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
CO ₂ 排出量	Kg	8,153,747	8,444,750	9,686,820	9,885,180	9,361,195	9,027,966
	%	100.0%	103.6%	118.8%	121.2%	114.8%	110.7%
商品供給点数	万点	11,834	11,840	12,183	12,900	13,014	13,230
	%	100.0%	100.0%	102.9%	109.0%	110.0%	111.8%
商品1点当りCO ₂ 排出量	g	68.9	71.3	79.5	76.6	71.9	68.2
	%	100.0%	103.5%	115.4%	111.2%	104.4%	99.0%
投資	万円					2,500	1,760

①商品の供給点数として対象とする範囲

店舗・共同購入・戸配による供給商品
(共済事業・福祉事業・サービス事業の供給点数は除く)

②CO₂排出量としてカウントする範囲

ISO14001の適用範囲の部署・事業所など生協直営の事業活動

③カウント対象とするエネルギー

電気・都市ガス・LPガス・灯油・A重油・車両燃料

2) 対策及び検討事項

- ・既存事業所での省エネ設備機器等の導入可能性の調査
- ・支所冷蔵庫の間欠運転（土日電源OFF）及び旧冷凍庫の運転停止による削減
- ・本部及び物流センターのエアコンの入替えによる削減。(約40%の電力消費量削減効果)

本部エアコン 22台

(投資額約1,760万円：80万円/台の場合)

物流センターエアコン 25台

(投資額約2,500万円：100万円/台の場合)

- ・照明及び空調設備のインバータ化の検討
- ・自家発電装置（物流センター）の効率的な運転
- ・車載機などによる省エネ効果の調査、検討
- ・エコドライブの徹底やコースの見直し
- ・合理的な燃料（環境負荷のより少ない）への切り替えによる削減を検討する



2004年度環境監査報告書

2005年5月11日

市民生活協同組合ならコープ
理事長 瀧川 潔 様

市民生活協同組合ならコープ 環境監査委員会
委員長 松村 佳子 (奈良教育大学教授)
高木 誠司 (日本生協連環境事業推進室)
森 鈴子 (組合員代表)
前田美代子 (くらし担当常任理事)
鎌田 淳子 (環境活動担当理事)
貴田 章子 (監事)

2004年度環境監査報告書

ならコープ環境監査規程第6条、第7条及び第8条に基づき、「2004年度版 CSR報告書」記載予定の環境パフォーマンスの有効性、及び今後の目指すべき活動等の提案について、独立した立場から監査を実施しましたので以下の通り報告いたします。

1. 監査概要

環境監査 2005年5月7日(土) 9:00～15:15

2004年度ならコープ環境事業のまとめの書類監査 被監査者 森専務理事他13名

2. 2004年度実績の評価

2004年度取り組み計画の実績を見るとほとんどの項目において目標が達成されており、外部機関による2年次サーベイランスで「向上」の評価を受けたことは喜ばしいことです。以下に監査委員会のコメントを記します。

- (1)有機農産物及び地元農産物の取扱品目量が増えたことは、地産地消をすすめようとする組合員の要求を満たすことになり、また、搬送距離が短くなるために消費エネルギーの削減、地域農業の活性化につながり評価できます。
- (2)車両の効率的な使用により、原単位あたりのCO₂排出量が削減されたことは、評価できます。
- (3)今年度新たに2店舗新設されたにもかかわらず、全体として買い物袋の持参率が昨年度同様に維持されていることは、全国的にみても高いレベルであり監査委員会として高く評価できます。
- (4)店舗でのスーパーバッグ代金の一部を環境資金として県内の環境保全に取り組む団体への助成に生かされることは、組合員に対する資金の活用方について明確にするという観点からも評価できます。また2004年度は地域や組合員と共に進めた環境保全活動が増加しており、今後も地域に根ざした生協活動をさらに推進していくことを期待します。

3. 今後の取り組みに当たっての意見

今後の取り組みにあたって、当監査委員会から次の意見を提案するとともに、いっそうの環境保全活動の推進がなされるよう期待します。

- (1)「食の安心安全」の観点から、地元の農産物や環境に配慮した農産物の利用を進めることは、環境負荷の軽減になり、ひいては生産者と消費者の相互理解を強めることとなります。生産者との連携を強めるとともに、一方消費者に対しては「食育」を進めて、地産地消並びに環境に配慮した農産物の利用をすすめて欲しいと考えます。
- (2)環境マネジメントをする上で、数値目標の精度を段階的、継続的に上げていく努力を続けていくことを求めます。同時に、環境マネジメントシステムに関する認識を深め、全職員が日常業務に生かしていく努力が求められます。
- (3)容器包装などのリサイクル率が上がっていますが、回収の際に問題(回収できないものが混入している等)が生じています。組合員が守るべきルールを徹底を図り、職員と組合員とが知恵を出し合ってリサイクルに取り組む工夫が求められます。
- (4)CO₂排出量を商品1点あたり2002年度対比1%削減するという2007年度目的が、着実に達成されるよう様々な方面からの努力を強く求めます。

以上



2004年度環境監査報告書への対応

環境監査委員会 様

2005年5月12日

市民生活協同組合ならコープ 常勤理事会

環境監査報告書への対応

はじめに

ならコープの2004年度の環境保全活動、環境マネジメント活動の監査をいただき、ありがとうございます。

外部機関による2年次サーベイランスで「向上」の評価を得たこと、地産地消の取り組みに対する評価、2店舗を新規に出店した中での全国的にみても高いレベルの買い物袋の持参率の維持に対する高い評価をいただきありがとうございます。また、今後の取り組みにあたっての貴重なご意見をいただき感謝致します。

今後も環境マネジメントシステムの中で、役職員をはじめ組合員とともに、環境負荷の低減と地球温暖化防止を中心とした持続可能な循環型社会構築のために取り組みをすすめて参ります。また、今回の監査でご指摘を受けました内容を真摯に受け止め、常勤理事会として2005年度以降に取り組むべき課題として以下にご報告申し上げます。

1. 地元農産物・環境に配慮した農産物の利用促進について

有機農産物及び地元農産物の取扱品目量は今後も新たに増やして行きます。組合員さんへ明確にアピールできる商品として打ち出し（宣伝）を強めてまいります。同時に、「食育」の取り組みは生産者と消費者の交流や体験、行政や地域諸団体とも連携しながら「食べるたいせつ」運動としてすすめていきます。

2. 環境マネジメントシステムの推進について

数値化できる目標は、省エネ・省資源などの環境保全の取り組みを具体化する中で精度を引き上げ、トータルとしてCO₂排出量を削減できるようにします。また、全役職員には環境マネジメントシステムを上手く活用することが社会貢献及び経費の抑制・削減にもつながることへの理解を深めるように努めます。

3. リサイクルの取り組みについて

新しい組合員、特に戸配や荷受ハウスの組合員へのならコープのリサイクルルールのお知らせが弱まって来ています。ポスターの掲示やチラシを配布するだけでなく、職員から組合員に呼び掛けを行うこと、戸配委託先やエリア会などの地域活動への情報提供による啓蒙を活発にし、ルールの徹底をはかります。

4. 温暖化防止自主行動計画について

京都議定書が発効され温室効果ガスの削減は待ったなしの課題です。ならコープは事業者としての責任を果たすためにCO₂排出量の削減に向けた取り組みを実施いたします。役職員へのエコオフィス・エコドライブなどのソフト面での教育の徹底や実践は勿論、設備機器の入替えなどのハード面での省エネ・省資源化を計画的に実施していきます。

以上



2004年度の社会貢献活動

ならコープは2004年、おかげさまで創立30周年を迎えることができました。創立月の7月には、これまでお世話になった組合員ならびに県民の皆様、行政の皆様、お取引先様に感謝すると共に、あらためて住みよい奈良県づくりに貢献できるよう「六つの約束」をいたしました。

本レポートは、この六つの約束に則してならコープの現状を公開しています。ならコープが皆様に信頼され、より一層お役に立てるように、そして「コープがあってよかったね」と言っていただけるようになるための指針とさせていただきます。



こころからありがとう。コープ品質を、これからも。



おかげさまで、この夏、
ならコープは創立30周年を迎えました。

1974年7月25日、組合員数わずか1,722人（世帯）で発足したならコープは、この夏、創立30周年を迎え、組合員も21万人（世帯）となりました。組合員はもとより奈良に住むすべての方々にごころから感謝し、厚くお礼申し上げます。これからも食品の安心・安全の確保、信頼される商品の提供に努め、「コープがあって、よかったね」と言っていただけるよう、組合員、地域の皆さまの期待に応えてまいります。一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

地域とともに、これからも。

食品の安全確保に向け、皆さまの声を聞き、行政との連携を図ってまいります。他の模範となるよう、常に最新のフードセーフティーの仕組みづくりを推進します。食品の小売業としてISO認証取得に向けた取り組みを行ってまいります。地域とともに存りつづけるため、地産地消の食文化普及に努めます。環境・福祉事業の拡充を図ってまいります。子どもたちが安心して暮らせるように、子育てやユニセフ活動を積極的に支援します。

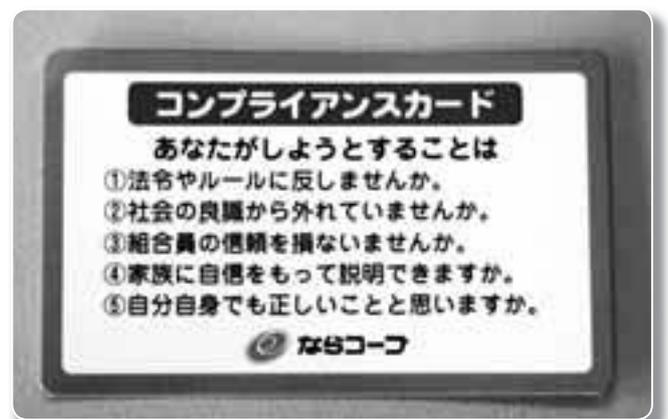


奈良市志の堂一丁目2番2号 TEL.0742-35-1183
<http://www.naracoop.or.jp/>

7月24日、新聞各紙に掲載した広告。「地域とともに、これからも」と題して六つの約束をいたしました。

コンプライアンス宣言

2004年3月、ならコープでは、食品メーカーの表示偽装事件や企業の事故隠しなど相次ぐ不祥事を受けて、自らを律するために「コンプライアンス宣言」をおこない、一人ひとりが協同組合人としての使命を自覚して地域の人々の暮らしに貢献することを誓いました。全役職員が「コンプライアンスカード」を携帯して、日々の業務において自身の行動を振り返るようにしています。また、2005年4月に施行された「個人情報保護法」に対応するため、2004年度にはコンプライアンス委員会において組合員や役員、取引先などの個人情報保護の仕組みを構築し、対応方針を定めました。



ならコープ倫理法令遵守方針

ならコープは天然トラフグ誤表記、お米の偽装問題などの商品不祥事を通じて自らの事業の弱点を認識するに至りました。組合員、消費者の信頼を回復し、真に民主的な経営を実現するために、正直、誠実を大切にするとともにコンプライアンス経営を宣言します。

【基本理念】

ならコープは、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯を生活協同組合の基本的価値とし、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とします。

【基本方針】

ならコープは事業と運動を通じて、地域の人々のくらしと文化に貢献することを目的に、食品を中心とした商品の供給、共済・サービスの事業、組合員活動などを行っています。これを踏まえ、倫理法令遵守につとめます。

そのために、当組合の事業活動、商品、サービスについて公正かつ適切な業務を遂行する行動規範を策定し、倫理法令遵守マネジメントシステムと倫理的風土の継続的改善をはかり、不正防止・責任体制の確立に取り組みます。この取り組みをすすめるために全役員に対する教育・啓蒙を積極的に行ない、以下の活動をすすめます。

- (1) 私たちは、生活協同組合の基本的価値と社会的責任及び公共的使命を認識し、健全な業務運営を行います。
- (2) 私たちは、事業活動に関連する法令のみならず、自ら定めた自主行動基準の精神を遵守します。
- (3) 私たちはすべての人格を尊重し、高い倫理感と責任感を持って、誠実に職務を行います。また利益と倫理が相反する場合は迷わず倫理を優先します。
- (4) 私たちは、安心・満足・信頼を旨とした高品質の商品とサービスを提供します。
- (5) 私たちは、事業活動、組合員活動などについて正しく理解をいただけるよう適時、適切な情報開示を行います。
- (6) 私たちは、地域社会に積極的に参加し、社会の信頼を得るようにします。
- (7) 私たちは、事業者責任としての環境負荷軽減にとどまらず、地域社会の環境保全に積極的に取り組みます。

この倫理法令遵守方針は、ならコープ内外に公表します。

2004年3月25日

市民生活協同組合ならコープ

専務理事 森 宏之

ならコープ個人情報保護に関する対応方針

市民生活協同組合ならコープ（以下、生協とする）は、組合員のプライバシーや個人に関する情報を保護することが社会的責務であると考え、県民の皆様が安心して、ならコープをご利用いただけるように、個人情報の保護に関する方針と個人情報の収集・利用・管理についてのしくみを定め、適切な保護に努めます。

生協は、個人情報保護の重要性と市民生活協同組合としての社会的役割を認識し、事業活動のあらゆる面で個人情報保護に配慮して行動します。

1. 生協に加入する際、また加入後にご提供いただく個人情報については、あらかじめ利用目的を明示し、組合員の同意の上で業務に必要な範囲で収集します。
2. 個人情報は個々の権利に属するものであることを認識し、本人の請求によって、開示、変更・訂正、停止などの適切な対応を行います。
3. 法的根拠に基づいた要請などによらない限り、組合員の事前承諾なく第三者に個人情報を開示・提供することはしません。組合員の個人情報を業務委託先に提供する場合は、守秘契約等によって業務委託先に個人情報保護を義務付けるとともに、適切な管理を行います。
4. 個人情報を保護するために組織全体の意識改革を行い、全職員が適切に個人情報の管理及び対応ができるよう教育訓練を行います。

2004年11月25日

市民生活協同組合ならコープ

専務理事 森 宏之



最新のフードセーフティシステムの構築

ならコープは、消費者の権利を尊重し、たしかな商品とサービスをお届けすることを商品事業の使命としています。2003年には「ならコープ商品政策」を全面的に改正して、常に最新のフードセーフティの仕組みづくりを目指しています。

①組合員の声・消費者の皆様の声を尊重

組合員ならびに消費者の皆様の声は、ならコープの全ての事業活動の原点と考えています。組合員・消費者本意の商品づくり、声に基づく経営改善を間断なくすすめて、組合員満足を追求しています。2004年度は11,021件の「声」をいただきました。

専務理事を委員長として各部署の代表と組合員理事で構成している組合員の声中央推進委員会では、寄せられた「声」を評価・分析して業務改善に生かしています。



組合員の声 中央推進委員会



②たしかな商品事業を展開するための商品政策

「ならコープ商品政策」は、21万世帯を超える組合員の暮らしの変化に対応できる商品事業の基本的な考え方や指針を定めたものです。組合員のニーズの実現、ライフスタイルや社会環境の変化への対応、組合員の参加を大切にした商品開発、消費者の権利の尊重を柱に、たしかな商品事業の展開のために必要な制度や自主基準づくりをめざしています。2004年度は、最新の科学的知見に基づいて食品添加物基準見直しプロジェクト（座長：藤原邦達医学博士）を発足して、組合員と共に1年間論議してきました（2005年12月に最終確定の予定）。

安心・安全を確保するための商品にかかわる ならコープの自主基準

- ◆商品取扱い基準
- ◆産直農産物および産直畜産物の取扱い基準
- ◆食品添加物に関する自主基準
- ◆遺伝子組換え食品の表示についての基本対応
- ◆アレルギー物質表示についての基本対応
- ◆環境ホルモン問題についての基本対応
- ◆容器包装指針（容器包装ガイドライン）
- ◆ならコープ商品の開発と廃番の考え方
- ◆取扱い商品の微生物検査基準
- ◆ならコープ環境配慮型商品の定義と基準
- ◆重大事故発生時の対応基準
- ◆商品の交換・返品基準

③見やすく、正確な商品の表示

2003年度の商品表示適正化委員会では主に食品表示の適正化に取り組んできましたが、2004年度は無店舗非食品表示検討委員会にあらためて、化粧品、衣料品、雑貨の表示の適正化を図ってきました。無店舗事業の商品案内書（「くらのパートナー」）の信頼性を高めるために、表記内容の点検と見直し、取引先と共に「不当景品類及び不当表示防止法」の学習（講師：広告審査機構）などに取り組みました。購入に当たって機能や性能が誰にでも正しく理解できるように、説明文の内規を作成しました。

④商品事業をチェックする仕組み

商品リスクアナリシス委員会は、関連する部門（商品仕入、品質保証、物流、広報、店舗、無店舗、法務）代表で構成され、毎月1回内外で発生または発生し得るリスクを分析し対応・予防してきました。また、ハインリッヒの法則に基づいて“ヒヤリハット”事例を出し合い、ヒューマンエラーの防止にも努めています。

2004年5月には、奈良女子大学理学部教授 鈴木孝仁先生、近畿HACCP実践研究会理事 澤田玄道先生、奈良県技術アドバイザー 上田 修先生を委員に迎えて「安心安全業務監査委員会」を発足しました。ならコープのフードセーフティシステムに基づく各年度の商品事業計画の実践結果についての確に監査をしていただきました。安心安全を確保するための各種検査をより一層充実させること、リスク回避のための施策をより一層システム化すること、リスク回避の努力を組合員にさらにわかりやすく説明すること、などのご意見をいただきました。



安心安全業務監査委員会

⑤国産牛肉個体識別番号表示を法施行に先がけて実施

「牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法」の施行（2004年12月）に先がけて、5月から独自に牛肉の個体識別番号表示を開始し、10月には一部例外を除いて実施しました。組合員・消費者のBSEに対する関心は高く、より正確で、より早い情報提供が求められており、これからも確かな情報を提供してまいります。

⑥行政との連携

奈良県生活協同組合連合会、奈良県生活学校連絡協議会、

JAならけん、消費生活相談員、コープ自然派奈良とともに食品の安全懇談会を開催し、奈良県と食の安全の取り組みの意見交換をおこなってきました。また、ならコープ理事長が「奈良県食品安全・安心懇話会」委員に委嘱され、生産から消費にわたって食品の安心・安全を確保するための施策の策定に意見を述べました。同時に奈良県の「食」行動計画推進母体「なら食と農（みのり）」の県民会議 特選品・安全安心部会」にも理事長と商品戦略担当（職員）が委員に委嘱されました。



農林水産省近畿農政局主催地域農政フォーラムで消費者代表として報告する副理事長（中央）

⑦地産地消の取り組み

地元でとれたものを地元の人が食す「地産地消」。ならコープでは地域経済の活性化、地域の環境保全に貢献するため、県内の農産物や地場加工品を積極的に取扱っています。2004年度は、食べる“なら”大和キャンペーンとして約180品目を取扱い、およそ21億円の供給高になりました。8月にオープンしたコープ学園前（店）には地場野菜の直売所を設け、JAならけんの協力を得て奈良市近郊の生産者から旬の野菜を食卓にお届けしています。毎日早くに売り切れるほど好評を博しています。



コープ学園前の地元農産物直売所

商品検査

安心・安全の商品事業を支える商品検査は、微生物検査を14,073検体、理化学検査を2,689検体で実施しました。ならコープでは、組合員の皆様に信頼していただける商品の提供をめざして、独自で商品検査を実施しています。

①2004年度検査の実数

	無店舗新規	無店舗抜取	店舗新規	店舗抜取	保存検査	出荷検査	農薬等	その他	合計
微生物検査	2,477	6,644	1,071	2,788	99	277		717	14,073
理化学検査	1,231	99	538	61	—————		760		2,689

②微生物検査

一般生菌数、大腸菌群を中心に14,073商品の微生物検査を実施しました。特に新規取扱商品については事前に3,458点の検査を実施し、25商品がならコープの自主基準を超えたため取扱いませんでした。また、抜き取り検査で1品目が一般生菌数の自主基準を超えたため、商品を購入いただいた639人の皆様に電話連絡をして商品を回収いたしました。



③理化学検査

食品添加物検査では、新規扱い商品1,769点を事前に実施し、そのうち3商品が自主基準に適合しなかったため取り扱いませんでした。



④その他理化学検査

米（87商品）のDNA異種米判定、農産品（72商品）の残留農薬検査、ハム・ソーセージ類（39商品）のリン酸塩検査、うなぎの蒲焼き（3商品）のDNAによる品種判定、を外部機関に委託して実施しました。いずれも重大な過失や意図的な偽装はありませんでした。また、鶏卵の鮮度判定を1,036検体で実施しました。

安心・安全の社会を願って

イラク戦争をはじめとして今だおさまらない各地の紛争やテロ事件。また台風や大雨、地震や津波などの自然災害。2004年度も世界中で悲惨なできごとが数多く発生しました。ならコープでは、組合員の皆様と平和活動や被災者支援のための募金活動に積極的に取り組んでいます。

①ユニセフ募金・被爆者救援募金

ならコープでは、1984年から毎年、開発途上国の子どもや女性支援のための「ユニセフ募金」と原爆病院や被爆者団体に贈る「被爆者救援募金」に取り組んでいます。2004年度は、組合員の皆様からユニセフ募金に192万円、被爆者救援募金に188万円の善意が寄せられました。これまでの募金総額はユニセフが8,400万円、被爆者救援が7,514万円となり、募金引き受け団体を通じて役立てられています。

2004年度実績

ユニセフ募金	1,928,148円
一般募金	928,148円
ラオス指定募金	1,000,000円
被爆者救援募金	1,885,364円
広島赤十字原爆病院	250,000円
日本赤十字社長崎原爆病院	250,000円
広島原爆被害者援護事業団	350,000円
日本原水爆被害者団体協議会	200,000円
奈良県原爆被害者の会	500,000円
原爆被害者相談員の会	335,364円

②風水害、地震災害被災者救援の取り組み

2004年度は大雨や台風による水害、新潟県中越地震による震災などの自然災害が相次ぎました。また、海外でもスマトラ沖地震による津波が沿岸諸国を襲い多数の尊い人命が失われました。ならコープでは、これら自然災害の発生に際しては、ただちに被災した方々のための救援募金活動に取り組み、日本赤十字社などを通じて各地にお送りしました。

また、福井県豪雨では美山町と福井市に9人の職員が、台風23号では宮津市と舞鶴市に5人の職員がそれぞれボランティアとして参加し、家屋や施設の土砂のかきだし作業をおこないま

した。新潟県中越地震では8人の職員をコープ共済加入者の安否確認・給付申請手続きのための戸別訪問に派遣しました。

自然災害被災者救援募金実績

新潟・福井豪雨被害救援募金	4,122,532円
台風23号・新潟県中越地震被災者救援募金	6,996,750円
スマトラ沖地震・津波被災者救援募金	7,121,924円



上下 福井県豪雨被災地でのボランティア作業

③平和な社会を願って

核兵器の廃止を願って、東京から広島まで各地の生協が様々な平和の取り組みををおこない、つないでいく「ピースリレー」では、ならコープは奈良県原爆被害者の会と協力しながら、被爆体験のお話し会や平和行進などを展開しました。フォトジャーナリストの森住 卓氏によるイラク戦争で使用された劣化ウラン弾による被爆の現状の講演会は、参加された方々の胸を打ちました。

安心して暮らすことのできる街づくりーたすけあい・子育てー

健康に生き、安心して暮らし、安らかに老いることができる街。すべての人が安心して暮らすことのできる相互扶助の社会づくりは生活協同組合の使命と考えています。

①たすけあいの会の活動

たすけあいの会は、高齢の組合員や障がいをお持ちの方、産前産後の方の家事（買物や掃除）援助を目的に1989年にスタートした組合員のボランティア活動です。60歳未満の介護保険が適用されない方にもご利用いただくことができます。“組合員どうしのたすけあい”であり、気さくな対応が喜ばれています。2004年度は138人の方々がボランティアに登録されて127件、6,972時間の活動がおこなわれました。

②視覚障がいの皆様へのリーディングサービス

目の不自由な方にとって共同購入や戸別配達には便利な仕組みではありますが、商品案内書を読むことは困難です。そのため、43人の組合員ボランティアの方々が商品案内書をテープに録音してお届けしています。2004年度は、33人の方にご利用いただきました。

③高齢の方々へのお食事サービス

各店の調理施設を利用して、組合員ボランティアが高齢の方々とおいしい食事や楽しいひと時を過ごしています。現在11のボランティアグループがあります。配食サービスはご自宅に手づくりのお弁当をお届けしています。食事の会はお店の集会所を利用していっしょに食事を楽しみます。いろいろなお話をしながらの楽しい時間です。ミニデイサービスは、コープみみなしとコープおしくまの2店舗で開催しています。お食事のほか、ゲームや歌などを楽しんでいます。



ふれあい食事の会

④ホームヘルプサービス

2002年度から、本格的な介護サービスを提供するために介護保険事業（訪問介護事業、居宅介護支援事業）を開始しました。2004年度はディアーズコープいこま（店）に新たにいこま事業所を開設し、より広範囲の方々にサービスが行き届くようになりました。1999年には組合員をはじめとする多くの方々の募金によって建設された「特別養護老人ホームあすなら苑（社会福祉法人協同福祉会）」とも協力しながら、地域福祉の向上に努力しています。ホームヘルパー2級養成講座は63人が修了され、1995年の開講以来636人となりました。このうち50人の方がならコープのヘルパーとして活躍されています。

⑤子どもたちの健やかな成長を願って

子育て中の若いご夫婦の悩みを少しでも解消し、子どもたちをのんびり遊ばせることができるフリースペース「子育てひろば あっぷっぷ」が、2003年6月にコープみみなし、ディアーズコープいこまの両店でオープンしました。2004年度にはコープ学園前にも「おつかれママさん」「いやいや え〜んくらぶ」の二つの“ひろば”をオープンしました。

夏休みには小学生がお店の作業を体験する「コープサマースクール」は8店舗で開催し、小学生47人が商品のラップがけや果物の糖度チェック、店内放送、レジを楽しく体験しました。また、中学校が取り組む「職場体験学習」は、ディアーズコープいこまとコープおしくまの2店舗で8人の中学生が“仕事を体験”しました。



中学生の職場体験

共同購入や個人宅配をしている高田支所では、夏休みに小学校3年生以上の子供達64人がトラックに添乗して配達を体験しました。配達先の組合員の皆さんから暖かく迎えられ「いろんな人と出会えてよかった」「たくさん感謝してもらった」など感想が寄せられました。



小学生のトラック添乗

一方、悲しいことですが子どもを狙う卑劣な犯罪が増える中で、奈良市、生駒市では配達トラックに「子ども安全パトロール」のシールを貼って、子どもたちへの声かけや不審者の発見などに心がけました。



年末の子ども安全パトロール

小中学生が記者になってつくる「せいぎょう子ども新聞 じのはし」は3回発行しました。11人の記者が「門真市リサイクルセンター」「パン工場」「けいはんな情報通信融合センター（ロボット）」を見学し、楽しい記事を仕上げました。

毎月開催している「子ども料理教室」は、36回でのべ500人のお子さんが参加しました。また、親子で酪農家と交流を深める「三重県大内山酪農交流ツアー」には2回で17組のご家族が参加されました。また、桜井市の田んぼに地元奈良の「ヒノヒカリ」を植える「親子米作り体験」にはのべ34組のご家族が参加され、食べ物育てることの厳しさと楽しさを体験しました。その他、農林水産省近畿農政局主催の「芋掘り大会」に9家族、吉野の農家の方と交流を深めながら一年を通して農作業を体験する「もち米作り体験家族」には25家族が参加されました。



親子米作り体験のフィナーレ、稲刈り



もち米作り体験家族は最後にしめ縄づくりでしめくくり

⑥地域のサークル助成

環境、福祉、平和、生活文化の諸活動が、奈良の地で一層発展することを願って、2003年に組合員のサークルの助成制度を開始しました。各サークルには、年間3,000円の活動費を補助し、お店の集会室をお貸ししています。2004年度は248サークルに助成しました。

男女共同参画社会を目指して

男女が共に生き生き働くことができる職場づくりを目指して、2003年10月に「ならコープ男女共同参画プラン」を策定しました。

①基本的な考え方

(1) 職場における男女共同参画プランは、男女問わず職員が働きがいの持てる職場運営・マネジメントを育てていくこと、職場・家庭・地域での活動をバランスよく担う新しい時代の生き方をすべての職員が体現できるような職場風土を作り上げていくことを大切にすすめます。

そして、組合員との共感を大切にし、組合員の一層の運動参加に対応できる職員組織を築いていくことを目指します。

(2) 組合員活動における男女共同参画プランは「新しい組織機構」「運営発想の逆転」のふたつを結びつけながらすすめます。

(3) 事業活動における男女共同参画プランは、直接組合員と接する正規・パート職員など、すべての職員が元気になる制度とします。

(4) 男女共同参画プランを活発にすすめるためには、各職員の意識を高めていくことが大切です。その中で、中期行動計画の具体化をはかります。

(5) 運動と事業が結合した“見える活動”を発見していくことが重要です。そうした提言活動と共に、地域社会の中で、ならコープの組織が『元気なモデル』となることをめざします。

職員ひとりひとりが「ポジティブ・アクション」を大切にします。

②女性の管理職任用をすすめました

ならコープは女性の管理職が非常に少なく、「ならコープ男女協同参画プラン」に基づくアクションプログラムに沿って女性の管理職任用を積極的にすすめました。2004年度は正規職員では女性のグループリーダー（管理職A）2人、課長（管理職B）1人を任用しました。また、女性パート職員が存分に力を発揮できるように「パートリーダー制度」の導入もすすめて、2004年度から8人がパートリーダーとして活躍しています。



ならコープ環境保全活動の歩み

1974年	設立と同時にリターナブル瓶の回収開始	1995年	ごみ問題での市町村との懇談がすすみ、行政フェアへの参加が始まる
1978年	河川浄化のための請願署名（58,000筆）県議会採択 業務用ラップをポリエチレンに変更	1996年	卵パックのリサイクル開始 「水辺環境フォーラム宣言」を建設省に提出
1979年	買い物袋持参運動開始	1997年	COP3の開催を機に「ならコープエコライフ宣言」発表 PETボトル中間処理施設設置
1982年	スーパーバッグの有料化開始 （新規組合員に買い物袋無料配布）	1998年	環境マネジメント・監査システム導入 塩素系食品ラップの供給を全面中止
1990年	牛乳パックリサイクル開始 コープ低公害開発研究に参加 発泡スチロール漁箱の溶融リサイクル開始	1999年	無店舗事業配送車専用LPガス簡易スタンド設置 共同購入カタログ自己完結型リサイクル開始
1991年	ならコープ環境基本政策策定 空き缶及びPSP食品トレーリサイクル開始	2000年	生ごみ処理機設置
1992年	雨水再利用施設を2事業所に設置 環境測定活動の開始 地球サミットへの代表派遣（3人）	2001年	新環境政策の策定
1993年	PETボトルリサイクル開始	2002年	ISO14001システム構築・運用開始
1994年	LPガストラック（配送車）の導入開始 PSPトレーを再生した卵トレー「まもるくん」開発 （積水化成成品工業と共同）	2003年	内掛袋リサイクル開始 ISO14001:1996認証
		2004年	食品リサイクル事業者と委託契約し再資源化 （コープ朱雀・コープ学園前の生ごみを100%飼料化）

キリトリせん

ならコープ「CSRレポート2005」についてご意見・ご感想をお聞かせください。

「CSRレポート2005」をご覧いただきましてありがとうございました。来年度のCSRレポートの作成に活かしたいと存じますので、ぜひ下記にご記入の上、FAX等にてお寄せください。

市民生活協同組合ならコープ 環境・品質推進担当 宛て

FAX : 0742-34-8730

- この「CSRレポート」をご覧いただいたきっかけは何ですか
(1)郵送されてきた (2)職員向けに配布された (3)請求して取り寄せた
(4)その他 ()
 - この「CSRレポート」の内容はわかりやすかったですか。
わかりやすい 5 4 普通 3 2 わかりにくい 1
 - ならコープの環境保全活動について、どのようにお感じになりましたか。
評価できる 5 4 普通 3 2 評価できない 1
 - この「CSRレポート」の内容について足りない点や、改善したほうがよい点がありましたらお聞かせください。
 - その他、この「CSRレポート」やならコープの環境保全活動と社会的取り組みについて、ご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。
- ご協力、ありがとうございました。差し支えなければ下記にもご記入ください。
ご記入いただいた皆様の個人情報につきましては、市民生活協同組合ならコープが責任を持って管理し、今後のCSRレポートの内容充実にのみ利用させていただきます。

お名前：	性別： 男・女	年齢： 歳
ご住所：		
ご職業：	ご連絡先電話番号：	
FAX：	E-mailアドレス：	



2004年度主な取り組み

4月	無店舗非食品表示検討委員会スタート(～05年3月) 奈良県暮らしと環境フェスティバルに出展 アース・デー 2004INなら(1,100人参加 奈良県第一浄化センター)
5月	暮らしの見直し講演会「女性の年金と仕事」石津史子氏(66人 橿原文化会館) 暮らしの見直し講演会「生活レベルを落とさずに家計の見直しを始めるのは、生命保険から」小野瑛子氏(92人 ならまちセンター) 安心安全業務監査委員会スタート 法施行に先がけて「国産牛肉の個体識別番号表示」をスタート(店舗)
6月	環境月間 ならコープ食品衛生強化月間(～9月) 第4回親子米作り体験(JAならけん共催)(17組参加) ピースリレー 2004 食品添加物基準見直しプロジェクト発足(～05年3月)
7月	新潟・福井豪雨被害者救援募金(412万円) 読売、朝日、毎日、産経、奈良の各新聞に30周年記念広告として「六つの約束」を掲載 福井県豪雨災害復旧支援活動(美山町・福井市に9人参加)
8月	親子ヒロシマ・平和の旅(16人) 大内山酪農交流ツアー(7家族34人参加) 第8回地域保健全国大会における「食の安全・安心とHACCPシンポジウム」に、総合品質保証部課長がパネリストとして参加 コープ学園前オープン・地場野菜直売所設置
9月	福祉月間 奈良県でBSE感染牛が発見され、農林水産大臣、厚生労働大臣、食品安全委員会に要請書を送付 第5回あすなら祭(関連法人である特別養護老人ホームあすなら苑の高齢者の方々と交流700人参加) ユニセフ募金(192万円)・被爆者救援募金(188万円) 台風23号災害復旧支援活動(宮津市・舞鶴市に5人参加) 農林水産省近畿農政局主催地域農政フォーラムに副理事長がパネリストとして参加
10月	この間の台風被害・新潟県中越地震被災者救援募金(699万円) 第4回親子米作り体験(稲刈り)
11月	リサイクル月間 新潟県中越地震被災地のCOOP共済給付手続き支援活動に8人の職員が参加
12月	スマトラ沖地震・津波被災者救援募金(712万円)
1月	食育フォーラム「食べる“なら”大和。作る“なら”大和人」(222人参加 奈良ロイヤルホテル) 阪神淡路大震災10年 鎮魂の桜を特別養護老人ホームあすなら苑に植樹 農林水産省近畿農政局の地産地消フェスティバルに出展
2月	ISO9001:2000認証取得に向けて第1回推進チーム会議
3月	ならコープ環境保全活動助成募集 奈良県環境保全型農業推進フォーラムに常任理事がパネリストとして参加 食品添加物答申意見交換会(コープみみなし・奈良県中小企業会館)

ならコープCSRレポート2005
2005年5月発行

市民生活協同組合ならコープ

〒630-8503 奈良市恋の窪一丁目2番2号
ホームページ <http://www.naracoop.or.jp/>

ご意見・お問合せ

環境・品質推進担当 0742(33)9516
広報課 0742(35)1183



ならコープは2003年3月にISO14001:
1996の認証を取得しました。

この報告書は古紙100%再生紙、大豆インクを使用しています